

提出日：平成 21年1月9日

CPATHi18n 調査・視察報告書

鈴木 大輔（東北大学大学院情報科学研究科 教育研究支援者）

調査・場所
北京大学(中華人民共和国)
日程
2008年10月24日(金)～2008年10月26日(日)
参加者
鈴木大輔(教育研究支援者)
目的
海外の情報倫理教育の内容や実施状況の情報収集を行うため。そして、本研究科の授業内容と比較検討するため。
概要および成果 (※添付ファイル参照)
概要 <p>CPATHi19n とは、学部学生を対照としたコンピューター・サイエンスやコンピューター教育についてグローバルな視点から考える会議である。参加者数は約 30 名で、参加団体は、環太平洋地域の大学(中国・台湾・アメリカ)、新しいコンピューター・サイエンスの国際的な教育プログラムを行っているコミュニティやハイテク産業の企業 (IBM、Google、Intel) などであった。2 日間の会議中、13 のワークショップテーマに基づく会議が行われた。</p> <p><ワークショップテーマの一例></p> <ul style="list-style-type: none">・ グローバルな活躍を目指す SE 育成コース・ コンピューター・サイエンスのスキル向上のための国際交流・ Human Computing Interaction(HCI)の国際交流・ 情報倫理問題と国際的なコンピューター利用の影響・ CPATHi18n が提唱するコンピューター・サイエンス教育プログラム・ 環太平洋諸国のコンピューター・サイエンス教育プログラム・ 無錫国際大学のソフトウェア教育プログラム(産学連携) <p>など</p> <p>以上のワークショップテーマうち、海外の情報倫理教育の内容や実施状況の情報収集を行うために、「情報倫理問題と国際的なコンピューター利用の影響」のワークショップに参加した。参加するにあたって、本研究科の特色(学際性、情報倫理学や情報法律制度論の授業内容)について紹介した(添付資料参照)。</p>

成果

会議の結果、CPATHi18n で提案された情報倫理教育の内容として、プライバシー、情報アクセス、知的財産権の3つが重要とする結論に至った。具体的な教育内容として、情報セキュリティ、パブリックアクセス、法律と習慣、知的財産権、著作権、特許権、ネチケット、プライバシー、匿名性、コミュニケーションツールと文化、情報取捨選択などが挙げられた。特に、グローバルスタンダードな点と国の文化を反映した点を明確にして教育する必要性が重要との結論に至った。

その後、それらの教育を行うにあたって、具体的な教育方法や使用教材についてもいくつか提案が行われた。たとえば、国際的な会議の報告書、流行・文化、書籍ビデオの利用、生徒による文献調査、社会調査の実施、ロールプレイングゲーム、オンライン上での他国学生とのディスカッションなどが挙げられた。

これらの提案をふまえると、本学で行われている“情報倫理学”“情報科学法律論”などは、本学情報の学際性をうまく網羅し、CPATHi18n で提案された内容を含むプログラムであるといえる。たとえば、遺伝情報、生命情報といった広範囲な“情報”を授業の中で扱い、複数の分野の教員が情報倫理に関するトピックを設けて交互に授業を展開しているため、文理のバランスがとれた内容といえる。また、本学の取り組みを紹介した際、非常に興味を持っていた他国の教員が多かったため、先進的な取り組みである可能性が示唆される。

参考

CPATHi18n: (<http://www.cpathi18n.org/>)

CPATHi18n (Internationalization of Computer Science Education) in Beijing 参加報告

鈴木 大輔

CPATHi18n とは？

<目的>

学部学生を対象としたコンピューター・サイエンスやコンピューター教育について、グローバルな視点から考える。

<日時>

2008/10/23～26

<参加団体・参加者> (30名～40名程度)

- 環太平洋地域の大学(中国、台湾、アメリカ)、新しいコンピューター・サイエンスの国際的な教育プログラムを行っているコミュニティやハイテク産業の企業が参加 (IBM, Google, Microsoftなど)。

CPATHi18nのワークショップ(WS)

<WSテーマ・13>

- グローバルな活躍を目指すSE育成コース
- コンピューター・サイエンスのスキル向上のための国際交流
- Human Computing Interaction (HCI) の国際交流
- 情報倫理問題と国際的なコンピューター利用の影響
- CPATHi18nが提唱するコンピューター・サイエンス教育プログラム
- 環太平洋諸国のコンピューター・サイエンスの教育プログラム
- 無錫国際大学のソフトウェア教育プログラム(産学連携)

など...

参加目的

海外の情報倫理教育内容や実施状況の情報収集を行い、本研究科の授業内容と比較検討する。

- “情報倫理問題と国際的なコンピューター利用の影響”のWSに参加するにあたって、以下を紹介。

- ・ 本研究科の特色(学際性, 様々な研究領域の存在)
- ・ “情報倫理学” “情報法律制度論”の授業内容(シラバス)

1. 情報倫理学

- 高度の情報技術社会はさまざまな倫理的問題や法制度的問題に直面しており、“情報倫理”はそのような問題を多角的学際的に検討するために構築された学問領域。

達成目標・目的

※異なる研究領域のスタッフが情報倫理に関する様々なトピックについて授業を行い、様々な観点からこの問題について考える能力を養う。

講義概要

	授業計画・内容
1	情報と倫理 (篠沢)
2	不正アクセス (加藤)
3	暗号 (静谷)
4	情報セキュリティ (曽根)
5	情報と法律 (浜田)
6	遺伝情報 (磯野)
7	生命倫理 (中尾)
8	ネチケット (菅沼)
9	情報化社会における「声と耳」(徳川)
10	キャラクター (窪)
11	メディアテキストのディススクールの実践と編成 (関本)
12	情報社会の技術と倫理 (篠沢)

2. 情報法律制度論

- 本研究科を修了し、情報技術に関する仕事についた者は、法的な問題に直面することがある。

—ex ソフトウェアやデバイスの開発や保守に関する契約問題
著作権、特許権など。

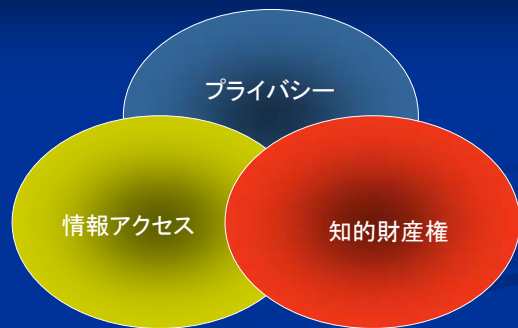
達成目標・目的

- このような問題を分野横断的に理解し、法的トラブルについて自律して対処する能力を養う。

講義概要

授業計画・内容	
1	情報技術と法律 Introduction, 学際領域
2	情報技術と法律 法と倫理、芳情学、情報基盤構
3	情報技術と知的財産権 契約総論、知的財産権総論
4	情報技術と知的財産権 著作権(1)～著作物、著作権者
5	情報技術と知的財産権 著作権(2)～権利侵害と救済
6	情報技術と知的財産権 著作権(3)～権利処理
7	情報技術と知的財産権 特許権
8	情報技術と知的財産権 その他の知的財産権
9	電子商取引と消費者の保護 法令
10	電子商取引と消費者の保護 システム開発と新しい法令
11	情報ネットワークにおける基本的人権の保護、個人情報保護法
12	情報ネットワークにおける基本的人権の保護、プロバイダ責任制限法
13	情報ネットワークの秩序 刑法
14	情報ネットワークの秩序 不正アクセス禁止法、通信傍受法

CPATHi18nで提案された教育内容



具体的内容

- **情報セキュリティ**
 - 不正アクセス、セキュリティ
- **パブリックアクセス**
 - アクセスする権利・アクセスを保障する権利
 - オンラインアクセス
- **法律と慣習**
 - オープンソースの配布・使用に関する法律
 - 情報アクセスに関する法律
(国がどこまで介入するのか？政治体制の影響)

具体的内容

- 知的財産権 ・ 著作権 ・ 特許権
- ネチケット
- プライバシー
 - 画像(ex Google street view)
- 匿名性の問題

具体的内容

- **コミュニケーションツール(流行)と文化**
 - 自殺にまで追い込む書き込み
 - 利用者の暗黙のルール(※文化の影響)
- **情報の取捨選択**

どういった側面がグローバルスタンダードなのか、
どういった側面がその国の文化を反映しているのかを
明確にする必要性あり

教育方法・教材の提案

- **国際的な会議の報告書(グローバルスタンダードな側面)**
 - －OECD(経済協力開発機構)の情報技術部会、UNHR(国連人権高等弁務官事務所)の報告書を利用
- **流行・文化**
 - －流行しているSNS(モバイルツールやインターネットツール)、掲示板などを題材
 - －暗黙のルール
(ex 使用される言葉、書き込む際の慣習など)
- **書籍・ビデオの利用**
- **生徒による文献調査、社会調査の実施**

教育方法・教材の提案

- **ロールプレイング・ゲーム**
 - －実際にSNSや掲示板等を作成し運営し、
その中で様々な役割を設定し体験
- **オンライン上で他国の学生と情報倫理や法に関するディスカッションの実施**
 - －文化の違いを体験

参加を終えて

- “情報倫理学”“情報科学法律論”は、CPATHi18nで提案された情報倫理教育プログラムの内容を網羅。

※遺伝情報、生命情報まで広範囲に扱っている点が本研究科で行われている情報倫理教育の特色のひとつ。

(様々な分野の教員が情報倫理に関するトピックを設けて交互に授業を展開。)